

経営比較分析表（令和元年度決算）

長崎県 長崎市

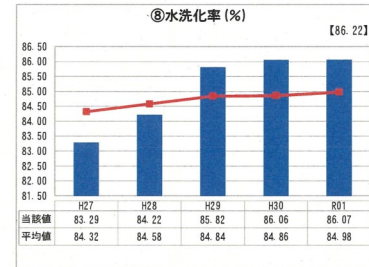
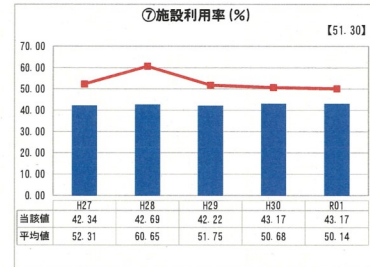
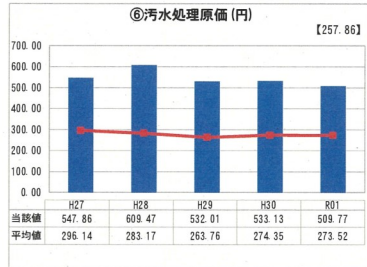
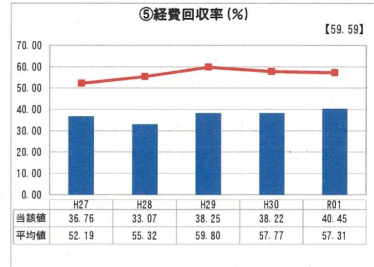
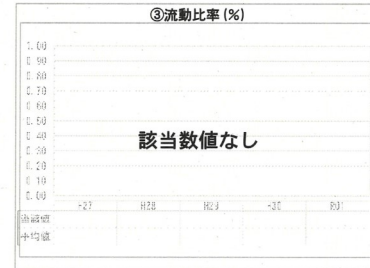
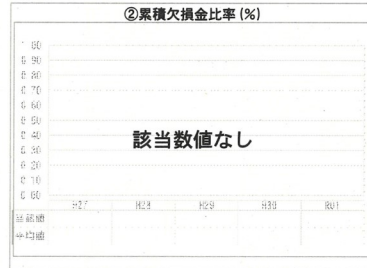
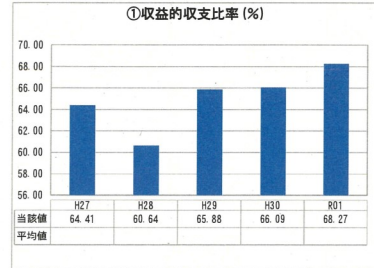
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非通用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)
-	該当数値なし	1.12	89.65	3,300

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
416,405	405.86	1,025.98
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
4,630	1.63	2,840.49

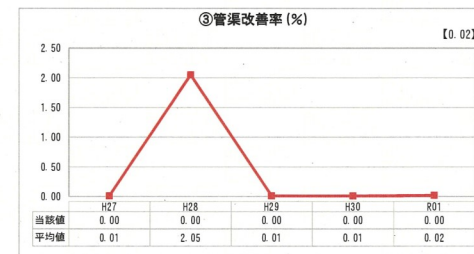
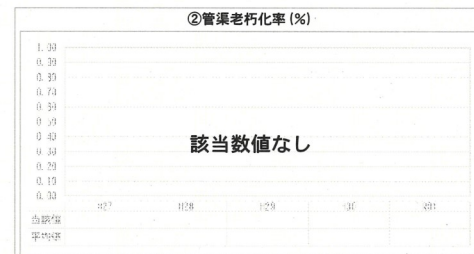
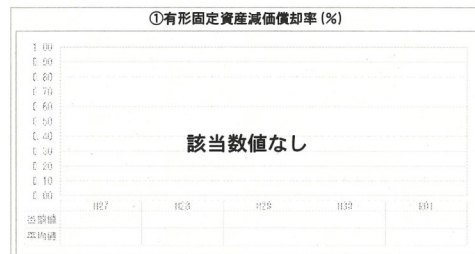
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①収益的収支比率」は、近年は単年度の収支が黒字であることを示す100%を下回る60%後半で推移している厳しい状況にあり、収支の不足分は一般会計からの繰入金により補填している。

「④企業債残高対事業規模比率」については、企業債残高が減少していることから、前年度より減少している。

「⑤経費回収率」は、類似団体平均値を下回る30~40%台で推移している。これは、使用料は公共下水道と同様の水準とする一方で、小規模な処理施設が分散しているため、維持管理費に多額の費用を要しているためである。

「⑥汚水処理原価」は、類似団体平均値を大きく上回っており、汚水処理費の削減に取り組むとともに、公共下水道への接続や施設規模の適正化を図っていく必要がある。

「⑦施設利用率」は類似団体平均値を下回っており、今後、施設の統廃合など一層の効率的な運用が必要となる。

「⑧水洗化率」は、類似団体平均値を上回っているが、今後も水洗化促進を行い、使用料収入の確保に努める。

2. 老朽化の状況について

本市の農業集落排水施設は、平成9年度から平成18年度にかけて供用が開始された施設である。施設の老朽化の状況は異なるが、今後各施設の老朽化が進んでいく。

適切な維持管理及びその効率化に努め、事故の未然防止や維持管理費用の抑制を図っていく必要がある。

全体総括

施設の老朽化状況を把握するために平成28年度から3か年で機能診断調査を実施した。その結果を踏まえ、計画的な修繕、改築及び公共下水道との接続についての構想を策定しているところであり、今後、各施設を2040年までに公共下水道へ接続をすることにより、効率化を図ることとしている。

なお、公共下水道への接続による費用対効果が見込めない施設については、人口の減少等、社会情勢の変化に応じた施設規模の適正化を図り、効率的な事業運営によりコストの削減を図っていく。

※ 法通用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。